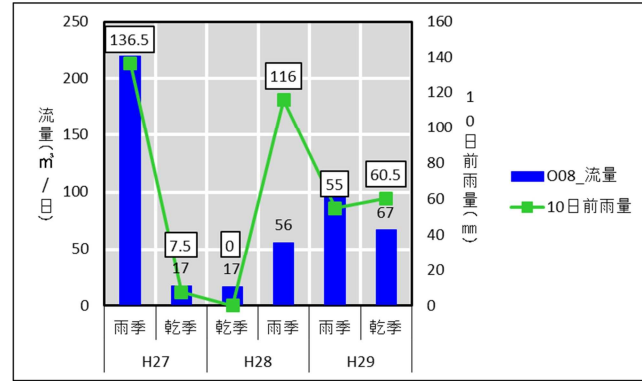
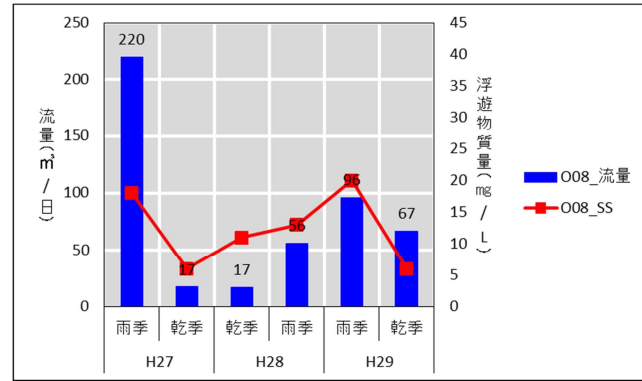
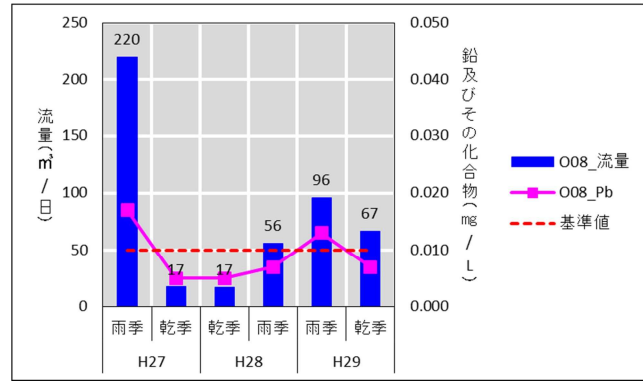


008 地点

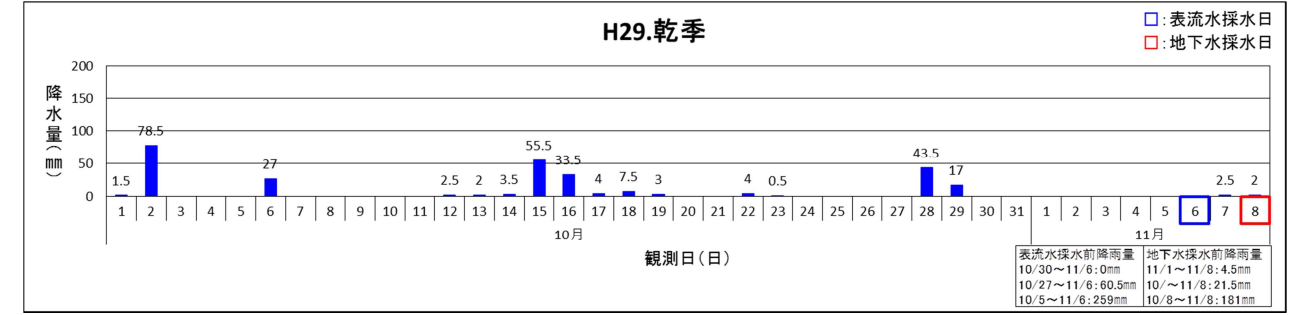
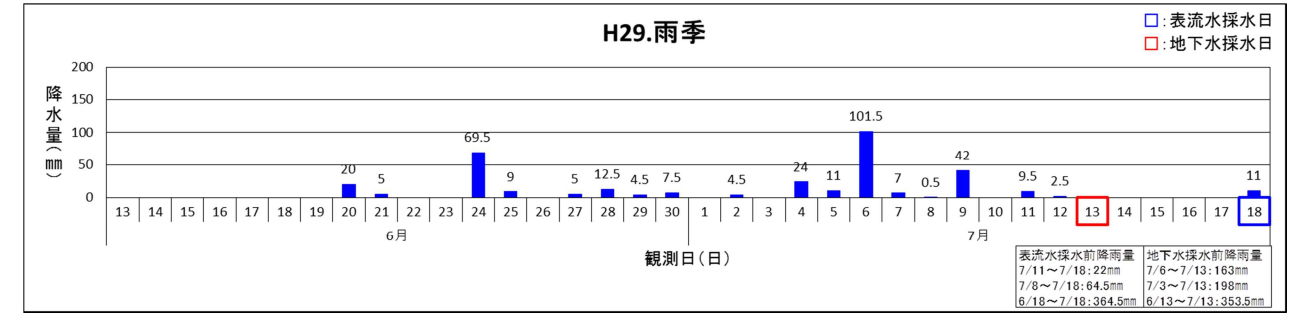
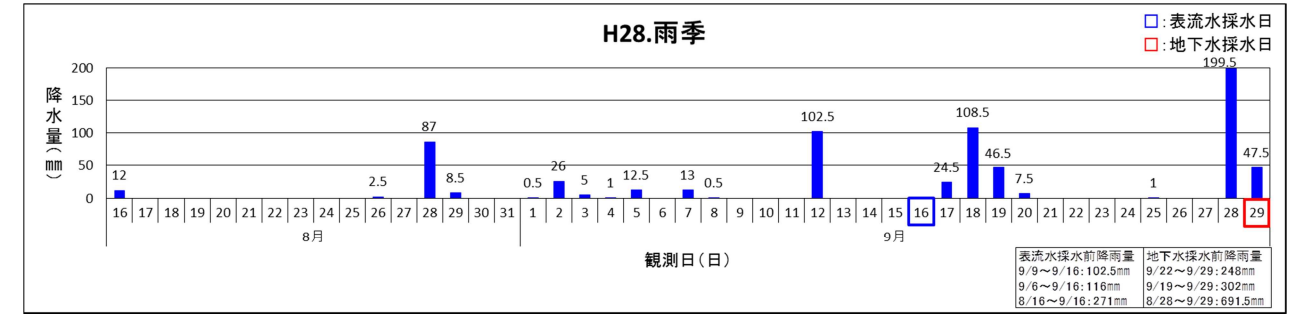
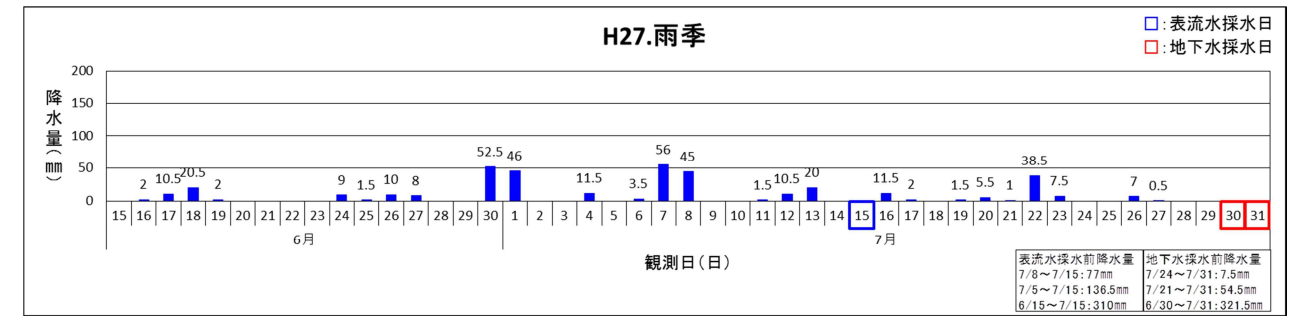
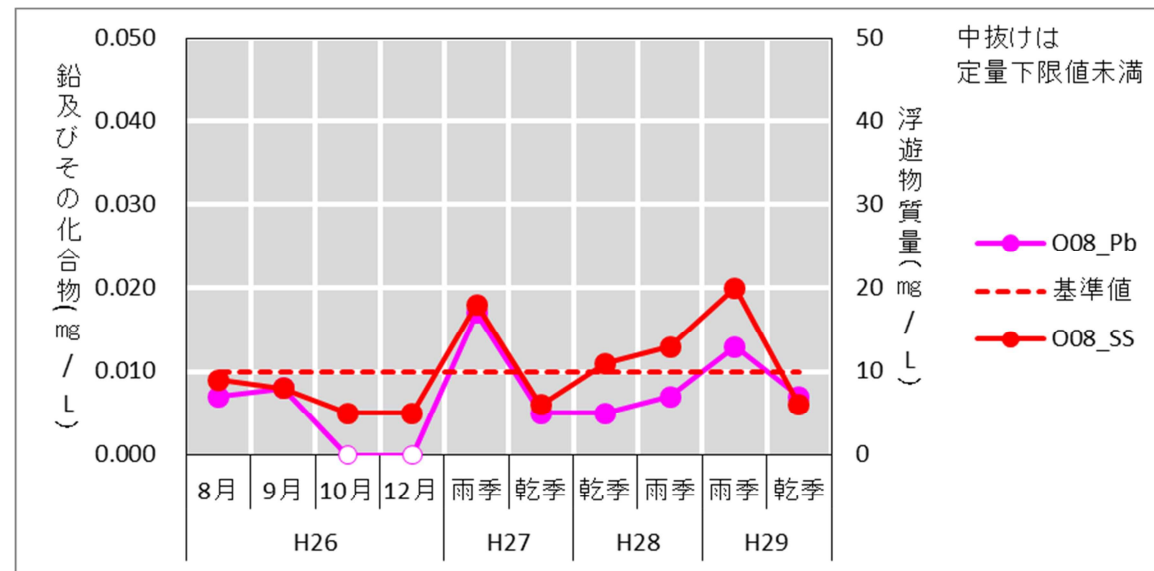


008 地点は、鉛・SS・流量の推移が類似しており、流量の増減が鉛・SS の増減に反映されやすいことが伺える。

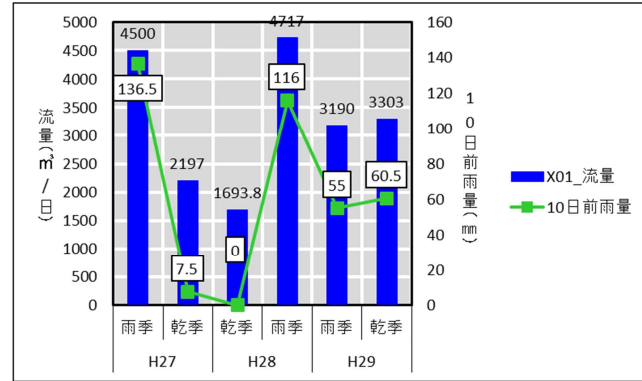
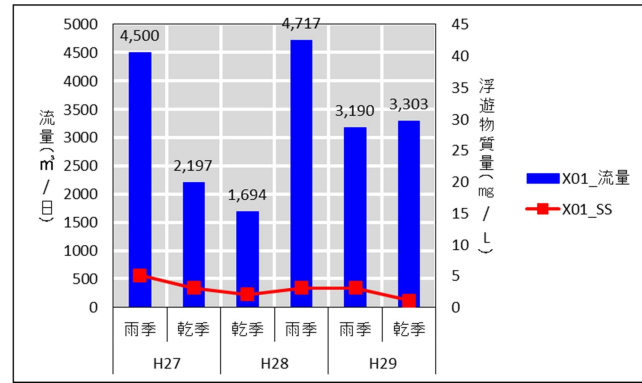
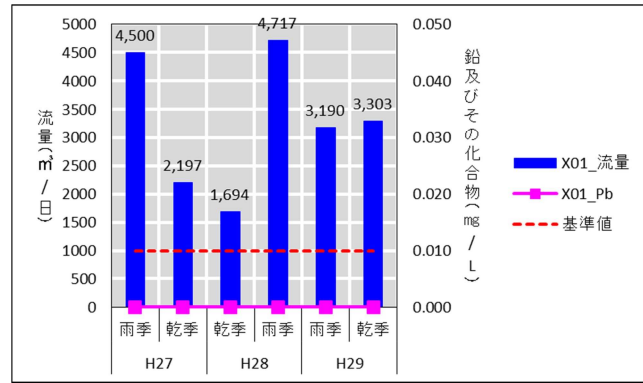
流量と雨量の関係に関しては、降雨から流量測定(調査)に間が空いた H28 年雨季と H29 年乾季(H28 年乾季は除く)のことを踏まえると、雨量が流量に反映されやすいことが伺える。

008 地点は、排水タンクから流れ出る放流水を採水している。上流に位置する N08 地点は、流量が少ない時に鉛・SS が多く検出され(H28 年乾季等)であり、下流に位置する 008 地点では同時期に基準を下回っている。このことから、排水タンクが上流からの鉛・SS を低減させていることが考えられる。

調査日	008										基準値
	H26				H27		H28		H29		
採水日	8/25	9/28	10/31	12/8	7/15	10/21	8/9	9/16	7/18	11/6	—
pH	7.2	7.3	7.1	7.1	7.6	7.5	7.4	7.3	7.3	7.5	—
Pb	0.007	0.008	N. D	N. D	0.017	0.005	0.005	0.007	0.013	0.007	0.01 以下
SS	9	8	5	5	18	6	11	13	20	6	25 以下



X01 地点



X01 地点は、これまでの調査結果から鉛は検出下限値(0.001mg/L)未満となっている。SSも河川や湖沼、海等に適応される生活環境の保全に関わる環境基準(ここでは河川 A 類型とした。)の25mg/Lを大きく下回り、特に問題はない。

流量と雨量に関しては、雨量の増減と流量の増減が類似している。H28年乾季は20日以上降雨がなく、H27年からH29年までの調査の中で最低値を記録した。H29年雨季と乾季で流量にあまり差がない。これは雨量が乾季の方が多く、雨季が少なかったことが要因に挙げられる。

項目	調査日										基準値
	H26				H27		H28		H29		
採水日	8/25	9/28	10/31	12/8	7/15	10/21	8/9	9/16	7/18	11/6	—
pH					7.7	7.6	7.7	7.5	7.5	7.6	—
Pb					N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	0.01 以下
SS					5	3	2	3	3	1	25 以下

